



もりり  
北の森林  
国有林

写真：幌尻岳山頂から北カールを眺む

今月のトピック

- ・ 国有林材の安定供給に向けた取組

9

平成30年  
No. 33



国民の森林・国有林

林野庁 北海道森林管理局



2018年は北海道150年  
Hokkaido's 150th Anniversary



# 国有林材の安定供給に向けた取組

## 資源活用第一課

### はじめに

国有林野事業では、公益重視の管理経営を一層推進しつつ、地域における木材安定供給体制の構築等を図るため、森林の機能に応じた施業の結果、得られる木材の持続的かつ計画的な供給に努めることとされています。



写真-1 国有林材供給調整検討委員会

平成30年度は、北海道の国有林から供給する木材は、トドマツ、カラマツの針葉樹を中心に、立木によるものが約78万立方メートル、素材(丸太)によるものが約64万立方メートルとなっております。

また、北海道森林管理局においては、国産材を政策的に供給し得る国有林の優位性を活かし、価格急変時の供給調整機能を発揮する目的で、四半期毎に「北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会」を開催しています。

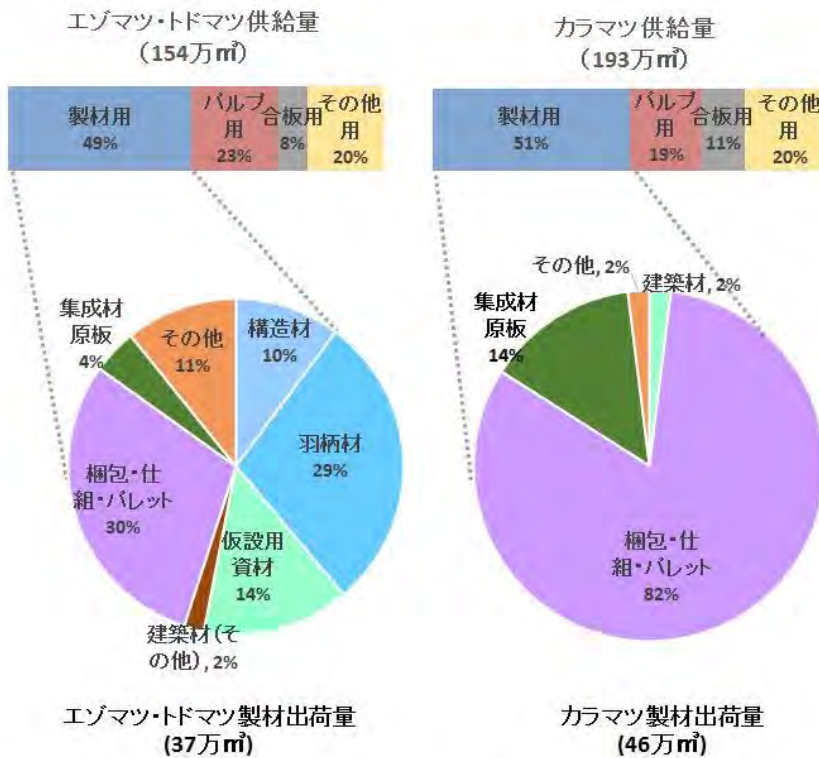
この委員会では、学識経験者や林業、木材業界の団体、事業者等の外部有識者等が構成メンバーとなり、地域の木材の価格や需給の動向を把握・分析し、国有林からの木材の供給量や供給時期の調整が必要なのかどうかの検討等を行っています。(写真-1)

この委員会の検討結果を踏まえ、国有林材の安定供給に努めることにも、検

討内容をホームページで公表し、木材供給等に係る情報を発信しています。

### ○針葉樹

北海道森林管理局における針葉樹の収穫は、人工林の主伐及び間伐によるものが主体で、樹種別には、



(出典)H28年度 北海道木材需給実績 木材需給情報(平成29年9月分確報)

図-1 針葉樹材の供給量と製材の用途別の内訳

トドマツ、カラマツ、エゾマツ、スギ等であり、このうちトドマツが71%、カラマツが18%と全体の収穫量の約9割を占めています。

北海道産のトドマツやカラマツは製材用として利用されるほか、合板、パルプ・チップ用などに利用されています。

トドマツやカラマツの製材は、主に荷物の梱包用材や工事現場で使用するコンクリート型枠用の角材(栈木)といった産業用の資材としての利用が大半を占めています。建築用としては、比較的小さな板材や角材(羽柄材)、集成材用の原板としての利用が多く、柱・梁など建築物の構造を担う部材としての利用はわずかです。(図1)

これらの資材や部材の生産には、主に小・中径木の丸太が利用されますが、北海道では、人工林の高齢化に伴って、トドマツや

カラマツの小・中径木の供給量が減少しています。

このため、北海道森林管理局では、小・中径木不足の現状を踏まえ、需要に応じた採材、仕訳を徹底し、製材工場等の需要に 대응することが出来るよう取り組むほか、高齢級化により大径となったトドマツやカラマツの構造材としての利用推進等、道産材の付加価値の向上に向けて取り組んでいます。(写真1、2)



写真-2 銘木市に出品したトドマツ

○広葉樹

北海道森林管理局における広葉樹の収穫は、針葉樹人工林の中に点在する

広葉樹によるものを主体としており、その大部分がパルプ・チップ用として利用されています。(図-2)



図-2 広葉樹材の供給量と用途別の内訳

これらの広葉樹を様々な用途で有効に活用するため、平成29年度に、これまで家具材やフロア材としての利用がなかった樹種や中小径木材の利用可能性について、国有林の買受事業者等に対しアンケート調査を行うとともに、広葉樹の需要者や流通業者、林産加工研究機関に対して聞き取り調査を実施しました。

調査の結果、北海道産広葉樹を有効に活用していくためには、北海道産広葉樹の安定供給などが課題とされたところです。また、供給が不足している樹種としては、ミズナラ、タモ等の旧来から利用されている樹種が、今後利用

拡大が期待される樹種としては、それらのほかシラカンバやハンノキといった早生の樹種が上げられました。(表)

このため、北海道森林管理局では、収穫された広葉樹が家具材やフロア材にも活用出来るような採材

に努めるとともに、伐期を迎えた全ての人工林を対象として、もともと北海道にあったような針葉樹と広葉樹が混交した森林づくりを進めることとしています。

【表】アンケート調査結果

北海道産広葉樹の安定供給に関する主な意見
① 需要に対して北海道産広葉樹原木供給量が少ない。
② 全体的に品薄のため、広葉樹一般材価格が上昇している。
③ 樹種、量、品質の安定した供給がない。
④ 広葉樹商品の開発を進める上で、原木の安定的供給にかかる将来の見通しが悪い。
需要に応じた広葉樹材の供給に関する主な意見
① 良質材(大径材)の供給が少ないため、天板用等の太い材は外材に頼らざるを得ない。
② シナ等の合板用材は22cm程度から使用可能だが、国有林の採材2.4mでは歩留まりが悪い。(合板の場合2.1mが標準)
③ シラカバの利用に取り組んできたが供給量が絶対的に不足している。需要に対して北海道産広葉樹原木供給量が少ない。
供給が不足している樹種、用途
ミズナラ(建築、家具建具、合単板、ウィスキー樽等)
タモ(建築、合単板、家具建具、野球バット等)
メジロカバ(合単板、建築、家具建具等)
セン(合単板、建築、家具建具等)
シナ(合単板、家具建具等)
今後利用拡大が期待される樹種、用途
ミズナラ(フロア、家具、ウィスキー樽)
クルミ(家具)
クリ(フロア)
サクラ(家具)
シラカンバ(合単板、木工品、家具)
ハンノキ(合単板、家具)

# 地域課題の解決に向けた取組

## 地域ぐるみで新たな林業の担い手育成の取組

上川北部森林管理署

### 1. はじめに

森林づくりを担う林業労働者の確保は、山村の活性化や雇用の拡大のためにも極めて重要です。

一方、林業労働力の動向を、「林業従事者」数で見ると、長期的に減少傾向にあります。

また、近年の林業生産活動の活発化などから、伐木・造材・集材従事者は、増加傾向にあります。付や刈、苗木づくりを担う育林従事者は、平均年齢は若返っているものの、減少傾向にあり、依然として高齢者の割合が高く、将来的に林業労働者を安定的に確保することが、地域の課題となっています。

### 2. これまでの取組と成果

こうした状況を踏まえ、当署では、昨年の5月に、北海道旭川農業高等学校と上川総合振興局北部森林室、下川町の4者が、実習等で包括的に連携協力することにより、未来の林業の

担い手となる人材を育成することを目的に「北海道旭川農業高等学校実習等の連携と協力に関する協定」を締結しました。



4者による協定の締結

具体的には、3ヶ年で林業の一連の流れを体験出来るプログラムとして、森林科学科の1年生で植樹、2年生で保育、3年生で伐採とキャリア教育（木材を活かした他産業などの現地見学や体験）を実施します。

昨年度は、森林科学科の全学年の生徒110名を対象に当署の旭川農業高等学校OBや若手職員等、延べ47名を派遣して、実習の指導・支援を行いました。このほか、インターン生の受け入れとして、旭川農業高等学校2年生5名、下

川商業高等学校2年生2名、長野県林業大学校1年生1名を対象に、接遇マナー、国有林の紹介、林道新設現場の案内等を行いました。

生徒からは、「進路に役立たい」、「森林を守る重要性がわかった」等の謝辞がありました。



標準地調査の実習風景

これらの取組により、旭川農業高等学校から下川町森林組合へ、昨年度は1名、今年度も1名就職するなど、「下川町における連携」の成果が現れています。また、高校の校長先生からは、「林業関連の公務員、企業等に進む卒業生の割合が確実に増えた」とのコメントをいただきました。

### 3. 今年度の取組

昨年に引き続き、5月に旭川農業高等学校森林科学科3年生36名、7月に2年生40名の生徒を対象に、当署から延べ16名の職員を派遣し、林業実習を行いました。

生徒からは、「将来、林業に従事することを希望したい」との声も聞くことができました。



枝打ち作業の実習風景

今後、9月には1年生の植樹等の実習、10月には2年生5名程度のインターン生の受け入れを予定しており、引き続き、地域ぐるみで、新たな林業の担い手育成の取組を推進していく考えです。

# こんにちは 森林官です!

宗谷森林管理署  
利尻森林事務所  
森林官 土井尻 康輔



姫沼から利尻山を望む

**自然豊かな利尻島**  
利尻森林事務所は、北海道の北部、日本海に位置する利尻島の国有林全域を管理しています。当事務所が管理する国有林の面積は約12,500haで、利尻島の面積のおよそ7割にあたります。利尻島には利尻富士町、利尻町の2つの自治体があり、当森林事務所は利尻富士町に所在しています。

利尻の地名はアイヌ語の「リ・シリ(高い・島)」が語源であり、島の中央には利尻富士の名でも知られる最北の百名山、利尻山(標高1,721m)がそびえ立ち、山頂付近には貴重な高山植物の花々が咲き誇ります。また、姫沼やオタトマリ沼といった湖沼があり、湖面に映る利尻山を眺めながら大自然の中を散策することができます。

島の主な産業は水産業と観光業であり、利尻の豊かな森林は海を潤し豊富な海産物を育みます。利尻のウニや昆布は高級食材として全国に知られています。



昆布の天日干し

## 森林官の仕事

森林官は地域の国有林の窓口として様々な業務を担っています。その業務は国有林を適切に管理するための林野巡視にはじまり、林内の状況確認や林道の維持管理、山火事の予防対策や入林者への対応などを行っています。また、大雨になると土砂災害等が発生する危険な箇所を中心に点検を行い、災害の防止に努めています。請負事業体による植栽、下刈りなどの事業実行

の監督も森林官の重要な業務です。島内ではこのような事業により植栽したトドマツ等が順調に生長し、森林資源は成熟してきております。今後は、これらの資源を有効に活用することを検討しなければならぬと考えます。



下刈りを実行した現場

また、観光シーズンには当森林事務所ではGSS(グリーン・サポート・スタッフ)を雇用し、森林官とともに入林者へのマナー啓発活動や歩道の簡易な整備などを行っています。その他、毎年秋には、「お魚を殖やす植樹運動」として、利尻漁業協同組合女性部が行う植樹祭に国有林のフィールドを提供するとともに植樹指導

など、漁業関係者による森づくりを支援しています。



植樹祭の様子

利尻島は従来、ヒグマやエゾシカは生息していない島として知られていましたが、今年5月に106年ぶりにヒグマが島に上陸したことが、当森林事務所設置した自動撮影カメラに写り、確認されました。入林者等の安全確保のため、引き続き、自動撮影カメラによるヒグマの行動確認やパトロール、注意喚起を行うて参ります。

## 結びに

利尻の豊かな森林を後世に引き継ぐため、地元の方々のご理解とご協力を得ながら、今後とも日々努力して参ります。



森林技術・支援センター

# センター通信



森林技術・支援センターは、全道を活動エリアとして、地域で求められる林業技術の開発・普及に取り組んでいます。

今回は、平成30年から5年間の予定で新たな課題として実施している「天然更新による広葉樹資源の持続的育成手法の確立」について紹介します。

## 実施の背景

本課題のフィールドは、空知森林管理署管内の夕張広葉樹施業指標林(夕張郡栗山町)です。

「施業指標林」とは、実際に森林整備のための各種作業を行いながら、その経過を調査・分析し、その成果を今後の施業に活用していくことを目的とした試験地です。

昭和59年に設定されたこの試験地は、面積約36haの広葉樹の天然林で、広葉樹林ではよく見られるカンバ類はほとんどなく、アサダ、オオバボダイジュ、イタヤカエデの3種で全体本数の5割を占めるといった特徴があります。30年以上に

わたり、森林の様子を継続調査しています。樹木の下はクマイザサが密生しているため、地表面まで光が届かず、樹木の種子が落下しても後継樹の生育は期待できません。ササは旺盛な生育力をもち地下茎によって生育エリアを拡大します。



林内の様子～下層はササ一面

今ある広葉樹の寿命がくれば、将来、辺り一面ササだけの場所になってしまうことが予想されます。そのため、ササの地下茎ごと除去する「地がき」という地表処理を実施します。その際、後継樹の発生・生育のための適度な光環境を確保できる箇所を選定するとともに、種子を落とす母樹の

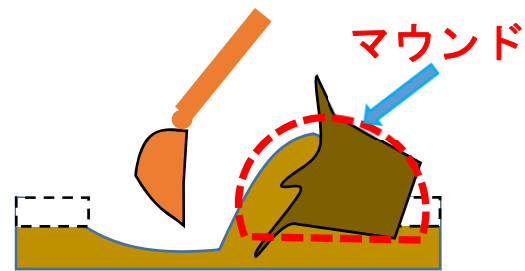
根を傷つけないように配慮し作業をしていきます。



機械による地がき作業

また、「根返し」といって、伐根があれば機械で根ごとかき起こし、林内にマウンドと呼ばれる小さい丘をつくる試みを何箇所か行っています。マウンドをつくることにより樹木にとっては、光・水環境が良く、土中にある菌類による被害も受けにくいという有利性が発生します。(下図参照)

自然の中でも風などによって倒れた樹木の根がこのようなマウンド状態になり、そこに稚樹が多く発生している様子をよく見かけます。



根返しのイメージ図

**今後の展開**  
現在、森林総合研究所北海道支所と連携を図り、試験地の一部の箇所において森林調査及び試験プロットの設定を進めています。エゾシカの食害による樹木の更新への影響も同時に調査しています。  
後継樹を確保するための作業を「更新補助作業」といいますが、広葉樹資源を持続的に育成していくための効果的な天然更新技術を確立し、民有林への普及も図りながら、取り組んでいきたいと考えています。



# 現地検討会等を開催



詳細は

森もりスクエア

検索



## 職場内現地検討会

平成30年8月22日(水)、上ノ国町中の沢国有林において、今年度の檜山署における地域重点課題である「造林コスト削減に向けた取組」の職員周知のための現地検討会を開催しました。

当日は植付コストの削減を目指した大型機械による地表処理(天然更新)の取組と下刈コストの削減を目指した新たな地拵方法である「盛土地拵」の2つのテーマで実施しました。

検討会では、積極的な意見交換が行なわれ、地域重点課題の理解を深めました。

(檜山森林管理署)

## 森林計画実行管理技術研修会

平成30年8月9日(木)、下川町の民有林において上川総合振興局、当署管内の市町村、森林組合、周辺市町の指導林家、旭川管内の職員を対象に「上川北部地区森林計画実行管理技術研修会」を開催しました。将来を見据えた低コスト造林や地域の特性に応じた適切な森林施業の実行管理に必要なとされる技術・知識を向上させることを目的に、クリーンラーチ大苗植栽試験地や間伐施業の事例地等を見学し、効率的な森林施業をテーマに意見交換が行われました。今後も地域林業の課題を解決するヒントになるような研修会を開催したいと考えております。

(上川北部森林管理署)



## 山づくりワークショップ

平成30年8月30日(木)に、空知管内市町の林務担当職員を対象に「第1回 空知の山づくりワークショップ」を開催しました。

市町林務担当になって日の浅い方に対象を絞り、その方々に林業の現場を体験し、施業の流れや基礎的な事柄を学んでいただくことを目的に座学と現地見学を行いました。

今回、アンケート調査により、ニーズを把握したので、第2回以降へ繋げていきたいと思っております。

(空知森林管理署)



## 一貫作業システム実行後の現地検討会

平成30年8月7日(火)、足寄町国有林内で十勝総合振興局、足寄町、陸別町、浦幌町、上士幌町、豊頃町及び林業事業体からも参加していただき、現地検討会を行いました。開催箇所は、昨年、大型機械地拵作業の実行中に「一貫作業システム」の現地検討会を開催した箇所です。今後も、実証実験やこれまでの取組みで得られた実績や蓄積したデータを示したり、現地検証の場を設ける等しながら、民有林関係の皆様と一緒に課題の解決に向け取り組んでいきたいと考えています。

(十勝東部森林管理署)

## 高性能林業機械に関する現地検討会

平成30年8月8日(水)、森町濁川国有林内で渡島総合振興局、檜山振興局、檜山森林管理署、関係自治体及び森林組合も交えて、保育間伐を行っている(株)高田建設に協力をいただき、高性能林業機械に関する現地検討会を実施しました。検討会では、ハーベスタ(伐木造材機)で木を伐倒し、枝払い、玉切りして造材する一連の流れを見学し、林業の低コスト化を進めるためのアンケートを行いました。今回の現地検討会が、関係機関を通じてひとつの課題を考える良い機会になったのではないかと思います。

(渡島森林管理署)

# 平成30年北海道胆振東部地震への対応状況

北海道森林管理局では、平成30年9月6日に北海道と合同で大規模な土砂崩れが発生している厚真町等を中心に、ヘリコプターによる上空からの森林被害調査を実施しましたのでお知らせします。

- 1 調査日時：平成30年9月6日(木) 9時30分～15時45分
- 2 主な調査場所：安平町、厚真町、むかわ町、日高町、占冠村、夕張市及び南富良野町ほかの民有林・国有林
- 3 調査機関：北海道森林管理局、北海道庁
- 4 調査概要：上空からの調査では、厚真町北部を中心に約13kmの範囲(厚真町、安平町、むかわ町)で多数の山腹崩壊が発生していることを確認しました。  
その他の市町村では、今回の地震に起因すると考えられる崩壊地は確認されませんでした。
- 5 その他：引き続き地上調査を実施します。



もり  
広報 「北の森林 国有林」 9月号  
発行 北海道森林管理局  
編集 総務企画部 企画課  
〒064-8537 札幌市中央区宮の森  
3条7丁目70  
I P 電話 050-3160-6300  
電 話 011-622-5213  
F A X 011-622-5194  
<http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/>

「きのこを知って楽しもう」  
9月28日(金)～10月10日(水)、北海道森林管理局の1階ホールできのこの写真を展示します。10月9日、10日は野生のきのこの展示と鑑定会を開催します。  
※詳しくは北海道森林管理局HPをご覧ください。